

みく



〈芝桜みくに公園にて〉

2024年 標語聖句

求めなさい。そうすれば、与えられる。
探しなさい。そうすれば、見つかる。
門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。
だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。

マタイによる福音書 7章7～8節

社会福祉法人 みくに園
障害者支援施設 みくに成人寮
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902番地1
HP: <http://www.teshimamikunien.com>

ドライブの時間

一般棟 小澤 拓也



一般棟の利用者さんは毎週金曜日、ドライブに行きます。中にはインドア派の方もいらっしゃいますが、多くの利用者さんはドライブの時間がお気に入り。車中では、歌ったり話したり車窓を堪能したり、それぞれのやり方で楽しんでいます。

風光明媚な豊島では、少し車で走ると幾つもの美しい風景に出会うことができます。みくに園を出て東に10分ほど進むと「唐櫃（からと）の清水」と呼ばれる湧き水があり、弘法大師がここで喉の渇きを覚え、自ら地面を掘りだしたところ、水が湧き出たという言い伝えが残されています。現在でも水源として利用され、地元の生活と密着に結びつき大切に保存されています。

清水から坂を下ると、海まで続く雄大な棚田が、広がる青空や傍らに立つ豊島美術館と併せ、観る人の心が洗われるような景観を構成しています。付近では畜産も営まれ、通りがかりに牛を見ると利用者さんの笑顔がはじけます。

唐櫃地区から南に進むと、甲生（こう）の集落があり、瀬戸内海を挟んで男木・女木などの島々を望むことができます。浜辺には瀬戸内国際芸術祭の作品で、「海を夢見る人々の場所」と名付けられた椅子が常設されており、利用者さん達もここに座ると、海の向こうにあるそれぞれの故郷に思いを馳せているかのようです。

ここから北上すると、みくに園のある家浦地区へ戻ります。1周30分足らずの道程ですが、ここで紹介できなかった見どころも多く、季節によって景色の表情も変わり、飽きることはありません。いつも金曜日の午後になると、一般棟はドライブを待つ利用者さんの熱気に満ち溢れ、温度が高くなっているのです。



希望の春

理事長 山田 久美

梅の花がようやく開花した早春の朝、私は京都の保護者のお宅に向かった。長年にわたり当法人の運営のために重責を担って下さった労苦への感謝の意を伝えること、そして高齢になられたご夫妻のお見舞いが目的であった。突然の訪問にもかかわらず温かく迎え入れて下さり、みくに園で暮らすご子息の幼少時代の思い出やご夫妻の近況を語って下さった。最愛の息子さんと離れて生活しなければならない悲しみを乗り越えて、ご主人は医師として高齢者の暮らしと地域医療を支え続けておられる。穏やかで品格がある言葉の一つひとつから、ご家族の大切な人生をみくに園に託して下さる思いの深さを痛感し、お二人のご健康とご活躍を願いながら帰路に就いた。

みくに園は1985年の設立以来40年目となり、園の歴史と共に保護者や利用者も歳を重ねている。愛する家族との最期に立ち会えない利用者、愛しい我が子の将来を案じながら天国に旅立った保護者の気持ちを思うと胸が痛む。保護者の方々の献身と希望に支えられて、みくに園は今日まで歩み続けることができた。

社会福祉事業の経営を担う者として、障害を持った方もそのご家族も、与えられた場所でその人らしく精一杯輝いて生きて行く日常にこそ価値があり希望があると実感している。今ここで生かされていることに感謝し、勇気と希望を持って、共に人生を力強く歩む者でありたい。

先日、三人の六年生を送り出す地元の小学校の卒業式に参列した。豊島の美しい大自然の中で伸びやかな成長を続ける卒業生達の目は輝き、自信に満ち溢れていた。

豊島の未来に明るい光を感じ、若い力に勇気づけられて、希望の春を迎えた。

虐待防止研修

～権利擁護・成年後見制度について～

令和6年3月1日、香川県社会福祉士会の高橋順子氏にお越しいただき「権利擁護について、成年後見制度について（権利擁護の視点で）」の研修を実施しました。

権利や人権を守ることや虐待が起きるリスク要因などをみんなで考え、日頃の自分たちの支援を振り返る貴重な時間となりました。また、成年後見制度や成年後見人の具体的な役割も学ぶことができ、成年後見人と私たちは利用者さんを支援するチームの一員であることを改めて認識しました。

これからも、みくに園の理念である「みんなで創る明日の福祉」の基、私たちは利用者さんの権利擁護の支援者の一人であることを忘れずに支援に当たりたいと思います。

〈職員の研修レポートを抜粋して紹介します〉

- * 人は誰でも人の役に立って暮らしている。「ありがとう」「ごくろうさま」という言葉をかけてもらうことで人は生きている意味を見出せると思う。今年パン屋は21年目を迎える。利用者さんと積み重ねてきた長い月日を見ると、今は共に働いてもらった感謝の気持ちで一杯だ。高齢になった利用者さんのこれからの生活が心豊かなものであってほしい。これからも利用者さんに寄り添い信頼関係を築いていきたい。
- * 身体拘束の種類としてスピーチロック（言葉の拘束）があったが、この考え方を知る事で利用者さんへの日頃の声掛けを考える上での認識が変わりうると感じた。集団生活の為やむを得ず制止するような声掛けをする場面があるが、それらが習慣となって必要以上に利用者さんの心身を拘束する言葉となっていないか見直したい。
- * 主張できない人達の権利はどうなのだろう。主張できなくても思いはあり、分かって欲しいと何らかの方法で表現することもある。そういった声なき声に耳を傾け対応する力が施設で働く職員として必要だ。我々厨房職員はどうだろう。利用者さんの健康な生活を食の面から守るために食に関する決定権をほぼ奪っている。権利を奪っている我々は、食事を安心・安全でより楽しいものにする責任がある。人は健康な生活を保障されているのだから。それは、重大な責務である。
- * 業務の忙しさ、意見が認めてもらえない、業務のこなし方の違い、意思疎通がうまくいかない悩みもあるだろう。そのストレスが、利用者さんや職員に当たるなら、それは改善する必要がある。虐待を再発しない為に、どう改善するべきか。とにかく職員にも利用者さんにもコミュニケーションがしやすい環境を作ること。自分の思いで判断せず、相手の上に立とうとせず、相手を尊敬して個人の思いを大切に、しっかり聞くこと。

避難訓練の実施

一般棟、高齢者棟において、土砂災害や津波を想定した避難訓練、また、消防署職員立ち会いの火災想定避難訓練を実施しました。土砂災害や津波を想定した避難訓練では、職員が利用者さんの薬が入ったリュックサックを背負い、落ち着いて避難することができました。火災避難訓練では、出火場所が分からず混乱する場面もありましたが、利用者さんはスムーズに避難することができました。その後、消防署職員による消火器の使い方の指導や防災用具の点検を行いました。

火災や災害はいつどこで起きるか分かりません。また、火災や災害が発生すると、パニック状態になると予想されます。今回の避難訓練を通して、少しでも冷静に行動する為には、このような日頃の訓練が大切なことを改めて実感しました。

今年度、感染症や災害等の緊急事態が発生した場合でも、事業を中断することなく継続する為の事業継続計画書（BCP）を作成しました。今後、避難訓練と共に、この計画書を基にした研修や訓練を実施していきます。
〈防災担当：川下 記〉



<薬が入ったリュック>



<高台へ避難している様子>



<消火器訓練の様子>



お花見



今年も豊島の桜がみごとに咲き誇りました。暖かな日差しと淡い桃色の花びらに春の訪れを感じました。



* 新任职員紹介 *



坂本真也
所属：厨房
趣味：温泉めぐり・サウナ



〈辞令交付式〉



中村武資
所属：事務所
趣味：山登り・キャンプ

* 行事 *

- 4月1日 辞令交付式・お花見
- 5月3日 春休み（帰省日）
- 5月7日 帰寮日
- 5月19日 豊島地区運動会
- 5月28日 環境整備（草刈り・水路掃除）
- 7月 夏祭り

* お礼 *

1月22日より高齢者棟で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しました。ご心配をお掛けしましたが、みなさまのご協力、ご尽力のおかげで無事に収束いたしました。感染した利用者さん、職員とも今は元気にはしております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

* お知らせ *

- * 株式会社良品計画さんが開設した宿泊施設（豊島家浦地区）「MUJI BASE TESHIMA（ムジベース テシマ）」のフードアメニティに、みくに園のレモンケーキが選ばれました。豊島を訪れた方たちに爽やかなレモンの香りをお届けしたいと思います。
- * 3月4日～3月15日までの10日間、高松短期大学の学生1名を実習生として受け入れました。

編集後記

春の日差しが心地よい季節になりました。

豊島ではたくさんの花が咲き、観光客でにぎわっています。

昨年度、コロナが落ち着いてきたこともあり、コロナ前に行っていた行事を少しずつ再開しました。当たり前前に思っていたみんなが集まるのがこんなにも楽しくて大切な事だったと改めて感じています。

今年度はイベントや外出など、利用者さんが楽しめることをたくさん行いたいと思います。

今年度もどうぞよろしく願いいたします。

（柴田 記）

* みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail: kgk03317@nifty.com

FAX: 0879-68-3920

みくにだより編集部：（161号 2024年5月発行）